

第24回シグマ{研究 専門}委員会議事録

日 時：昭和42年3月13日(月) 11:00 AM - 17:30 PM
場 所：(東京)都市センター第5会議室
出席者：百田，長山，坂田，飯島，後藤，更田，岩城，寺沢，八谷・塚田
大野，大田，五十嵐，能沢 (田中)
以上14委員

配布資料

- 1 第24回シグマ研究・専門委員会議事予定
- 2 第23回 " " 議事録
- 3 シグマ運営委幹事会議事録
- 4 第46回熱化グループ会合議事録
- 5 Cross Section Evaluation Working Group Meeting 参加機関及び参加者リスト
- 6 第10回EANDC提出資料リスト
- 7 EANDC 64A & 65A (複写)
- 8 IAEA「国際原子力情報システム(INIS)」の会議に出席して
(長山委員 日本原子力学会誌別刷)

議 事

- 1 前回議事録確認
2, 3の誤植の訂正があったのち承認された。
- 2 委員の移動
幹事会の議事録(配布資料3)にあるものは承認された。すなわち
森田委員(外国出張)……岩城委員(運委・及全幹事)に代る。
吉田委員(辞意表明)……河合光路氏(工大)
浅見委員(運委の" ")…西村委員
片瀬氏……外国出張より帰任の様子なので，意向

を打診して核データ・グループに参加
していただく。

そのほか、以下の提案と討議があった。

野沢委員（辞意表明）……………後任は幹事の合議に任せる。

寺沢委員（炉定数グループ辞意）……………松岡委員

大田委員（外国出張の予定）*……………中村邦彦氏
（京大）に代えたい。

MAPIの小林氏

炉定数グループの強化……………

炉定数グループの承認を得ればOK

* 運営委の後任は、幹事会に一任。

山越委員（外国出張）……………後任

角谷氏（工大）……………熱化グループ委員

熱化グループの承認を得ればOK

3 各グループ報告

(i) 熱化グループ（飯島委員）

第46回会合議事録（資料4）にもとずいて報告があった。

(ii) 炉定数グループ（坂田委員）

第14回、15回会合議事録にもとずいて報告があった。

(iii) 核データ・グループ（五十嵐委員）

(1) データ・シート整理

収集データを磁気テープに入れておくことになり、そのためのコードを作成した。

Resonance Parameter の方のデータもテープに入れることになり、コードを作成中である。

(2) 炉定数関係勉強会

松岡委員からMUFT の Lecture をきいた。

(3) 計算関係

Fission cross section 関係は9割方終了

4 JNDCニュースの今後のすすめ方

最近行なわれたアンケートの結果について以下のような報告があった。

（五十嵐委員）

2月21日現在70通（約60%）の回答を得た。

{ 利用している。……………	47 (70%)
{ 利用しなかったが今後はするつもり……………	22 (30%)
{ 現状でよい。……………	51 (73%)
{ 改善の余地あり……………	6 (9%)

今後重点をおいてほしいのは

{ 資料リスト……………	11 (14%)
{ 資料リストと紹介……………	19 (28%)
{ 資料ごとの紹介……………	23 (32%)
{ 話題欄……………	6 (10%)
{ JND Cの近況報告……………	6 (10%)
{ その他……………	5 (8%)

刊行の時期

{ a 年 4回……………	20 (28%)
{ 3回……………	5 (7%)
{ 12回……………	1 (1%)
{ b 不定期……………	10 (13%)

体裁は

{ 現状でよい……………	56 (80%)
{ 改善すべき (A4版に)……………	1 (1%)

百田主査より、JND Cニュースは1年間の試験的刊行ののち続刊するか否か、内容を如何にするかを再検討してゆくことになっていた事、アンケートをとったことの説明があり、今後のすすめ方が討議された。

予算措置については、原研技術情報部において42年度より定期刊行物の枠がとれる見通しがついたので、希望調査のあるとき申しこんでほしい。ただし定期的に(例えば年4回なら4回)必ず出してほしいと報告および要望があった。

アンケートの結果からみて、今後も続けてゆくべきと判断してよいであろうということ、ただし資料紹介は、現段階では漸進的にふやしてゆくことになろうということと異議はなかった。

5 INIS (International Nuclear Information System) の紹介 (長山)

I A E A により全世界的規模で行なわれようとしている原子力情報の文献収集と、より効率のよい利用のシステムについて、現在どの程度まで各国間の意見が調整され、どういう方向にすすんでいるかの報告および将来わが国もネットワークのメンバーになった際の協力方の要請があった。(資料 8)

6 Carbon の全断面積の評価 —— (西村委員欠席のため五十嵐委員)

この作業は、前回の運営委の席上討議され承認を受けている。

(第 23 回議事録 p. 4 —— 配布資料 2 参照)

原研西村氏をチーフとして、百田、塚田、中島、田中、更田、五十嵐の 7 人がメンバーになっている。

1 回 / 月に集り、作業の点検と今後のすすめ方の検討を行なっている。現在は evaluation work の準備の段階にある。

目標は、

(i) 入手した SCISRS のデータの整理と評価

(ii) 文献収集 —— そのデータ・シートの作成

これは主に CINDA による。CINDA に収録されているものについてその numerical data を CC DN に要求し入手する。

C を選んだ理由について質問があったが、これは standard として検討することを要求するリスト (EANDC) 中に Pb と C (C は 2 MeV 以下 Pb は 100 KeV 以下) があるためとの説明があつた。

なお、この作業については、今年中に preprint を出すことを目標としているとのことである。

7 41 年度予算使用状況

幹事会議事録 (配布資料 3) により説明があつた。(五十嵐委員)

概略以下のようである。

(i) 計算依頼費 (1 月末現在)

核物理研究室に配算された予算	6,550,000
旅費不足を補うため庶務へ	- 300,000
	<hr/>
	6,250,000

473-04 器材 69 より	+ 250,000	(計算センター)
計算センターへ振替 (予定)	6,500,000	(一へ振替分)

○ 炉定数グループは計算作業は完了した。

約 100 万円の赤は主として核データ・グループ分から補填した。

○ 熱化グループは、予定額 218 万、使用額（1 月現在）150.6 万で残は 67.4 万。

○ 核データ・グループは、予定額 220 万、使用額 同額

(ii) 器材費

核物理研究室（473-04）に配算された予算…… 800,000

○ ファイリング・キャビネット，腰掛等購入の

ため管財課へ振り替え…………… - 60,000

○ 電動タイプライター，デュプロ複写機，

データ・シート等購入…………… - 471,320

○ 計算センターへ振り替え…………… - 250,000

残 18,680

(iii) 運営費（3 月 2 日現在）

旅費（90 万 + 30 万 + 2 万） - 1,072,400 = 147,600

会計費（15 万 - 2 万） - 65,620 = 64,380

印刷費（14.4 万） - 93,548 = 50,352

8 42 年度実行予算作成に対する各グループの要求

(i) 委員会（含作業）開催予定

○ 運営委 8 ~ 10 回 / 年（東京）

Evaluation …… 1 回 / 月（於東海）

○ 炉定数グループ …… 1 回 / 月（東京）

作業 …… 1 回 / 2 カ月（於東海 5 人程度）

○ 熱化グループ …… 1 回 / 月（東京 東海 隔月）

○ 核データ・グループ …… 1 回 / 月（東京 8 東海 4）

作業 …… 1 回 / 3 カ月

(ii) 人件費（アルバイト）

JNDC 及びセンター 事務 3 人 } 100% 実現を期す。
計算 1 人 }

(iii) 計算依頼費

○ 炉定数グループ …… 250 万円

(内訳) (1) Prof. Grouch-M のプロダクション

(2) GAM-type の Library の作成

(3) F P の炉定数

(yield, life time, cross sections) を考慮に入
れる。

(4) 高速炉の炉定数作成

○ 熱化グループ..... 200万円

(内訳)

データ・シートの作成..... 10万

Evaluation Work..... 20万

Evaluationのための

コードの作成..... 170万

① MUSEコード

② Gasket Flange

③ 重水散乱関係

④ Diffusion Parameter

○ 核データ・グループ..... 200万円

(内訳)

共鳴関係..... 20万

既成コードのプロダクション... 50万

n・2n関係..... 30万

新規計画..... 100万

○ 運営委

Carbonの全断面積のデータの評価依頼費..... 50万円

以上を総括すると下記のようになる。

42年度査定額..... 10,000 (千円)

(1) 運営費..... 2,850

旅費 1,690

会議費 170

人件費 880

印刷費 110

(2) 計算依頼費……………7,000 (千円)

炉定数	2,500
熱化	2,000
核データ	2,000
Cの評価	500

(3) 器材費……………150

最終的な具体的数字については、幹事会に一任するということで意見が一致した。高尾から1名。

9 第10回EANDC出席報告(百田主査)

(JNDCニュース№4に報告されるため省略)

10 配布資料7 「Information and requests for Evaluation」について主査から説明があった。このrequestのまとめ方については次回運営委で検討するので、それまでに各グループに周知しておく。

11 40, 41年度シグマ委員会活動報告書の作成について

原子力学会誌に投稿することについては、異論はなかった。

予定としては5月中にまとめ、整理して、6月中旬ごろ学会に提出する。

具体策については随時幹事会に一任することになった。

12 その他

CCDN Newsletter №4 (SCISRS tapeの目次)が送付されてきた。EANDC CINDA Distribution listの人に全員送られている模様だが、その他に24部委員会宛送られてきている。

以上の報告が主査よりあったが、24部の国内配布先については、幹事会に一任された。

次回会合 場所、日時等の決定は幹事会に一任。

以 上